

令和5年度 第3回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立とりかい高等支援学校
校長名	松村 高志

開催日時	令和6年3月1日(金) 15:30 ~ 17:00
開催場所	大阪府立とりかい高等支援学校 図書室
出席者(委員)	A委員、B委員、C委員、D委員、E委員、F委員
出席者(学校)	校長、教頭、事務長、首席A、首席B、 教務主任、生徒指導主事、保健主事、進路指導主事、地域支援部長
傍聴者	0名
協議資料	<ul style="list-style-type: none">• 次第• 学校運営協議会 委員名簿• 学校運営協議会 事務局名簿• 令和5年度 学校評価• (参考) 学校教育自己診断アンケートランキング• 令和6年度 学校経営計画• 学校祭(11月) アンケート• 生徒保健委員会の活動報告• 令和5年度3年生(9期生) 進路状況

議題等(次第順)

- (1) 令和5年度 学校評価について
- (2) 令和6年度 学校経営計画について
- (3) 学校祭(11月) アンケートについて
- (4) 生徒保健委員会の活動報告(校外での発表)
- (5) 令和5年度3年生(9期生)の進路状況について
- (6) その他、質疑応答

（１）令和５年度 学校評価について

【校長】

学校教育自己診断は、生徒、保護者、教員とも 80～90%のものが多く、非常に高い評価だといえる。

生徒「学校行事は楽しみである」は 90.9%であり、初めて 90%台となった。

ICT・1人1台端末に関しては 90%以上のものが多く、高等支援学校の中でも進んでいる方だろう。

自立活動に関して教員は 55%で、昨年度より 16%低いことが課題である。具体的な指導法の共有が必要である。

進路指導に関して、生徒の評価が 93～96%と非常に高い。

人権（道徳教育）に関して、教員は 4年連続 60%台であり、改善が必要である。

性に関する指導は、保護者は 79.8%であり、保護者の全項目の中で最も低い。性に関する外部講師の研修を保護者向けにも実施したが、参加者は少なかった。保護者を呼び込むためのアナウンスが必要である。

危機管理に関して、90%台であり、非常に高いといえる。

ホームページの活用は、保護者も教員も 80%台で、活用しやすいものにする必要がある。

学校組織に関して、「会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」は 72.5%で、3年間ほぼ変わっていない。意識を高める必要がある。

研修に関して、伝達の機会が 60%で、昨年度よりも低い。伝達のための時間を作っていきたい。

全項目で、昨年度より大きく上回ったものは 14 項目、目標に達したものは 38 項目、達していないものは 15 項目であった。

今年度の取り組みで、目標の数値を達成できなかったものとして、

1（２）ウ「担任の先生に困っていることを話せる」は 77.3%であった。昨年度の 68.7%よりは高くなったが、目標の 80%に達しなかった。

1（３）オ「学校以外の相談機関の情報を学校から入手できる」は 83.8%であり、昨年度の 78.8%よりは高くなったが、目標の 85%に達しなかった。

1（５）イ クラブ加入率は 65%で、目標の 80%に達しなかった。昨年度の 70%よりも低くなっている。先輩が後輩に教えることにより、良い関係の構築につながるため、可能な限り入部して、楽しい学校生活を送ってほしい。

2（２）イ 専門性の向上に関して、支援学校免許取得は 60%で、目標の 80%に達しなかった。昨年度の 63%よりも低くなっている。単位取得者が転出し、免許のない人が赴任する場合もある。大阪府の支援学校全体としては 9割が免許を所持している。

2（３）ア 「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」は 60%であり、昨年度の 54.8%よりは高くなったが、目標の 60%以上をめざしたい。

2（３）イ 職員会議後の伝達講習は 2 回に留まり、目標の 5 回に届かなかった。職員会議での情報共有する内容が多く、時間をあまり割けないことが背景にある。

3（１）ウ 共生推進教室設置校への本校教員の派遣は 2 回に留まり、目標の 6 回には届かなかっ

た。スクーリングの火曜日以外について、設置校でどのように過ごしているか、その中で自立活動はどうしているかなどの課題を整理し、本校での指導と連動させたい。今年度は本校の職業学科との合同授業は、進度の違いから、実施は難しかった。本校生が共生生徒に教えたりサポートしたりすることで、互いにコミュニケーション力を高めて、交流と学びを深めていきたい。

3(3)イ 防災に関連して、摂津市防災委員との連携会議は未実施に終わった。今後はぜひとも一緒に取り組んでいきたい。

3(4)イ 台湾への研修旅行の実施は、これまでの新型コロナウイルス感染症の影響から、国内に切り替え、今年度は「福岡・長崎」へ行った。もう2~3年後に台湾実施の可能性が見えてくるかもしれない。

4(1)ア 校務運営の効率化10項目は実施できている。

4(1)イ 生徒アンケートの電子化は、実施率が8割で、目標に達している。

4(2)イ ワークライフバランスに関する職員研修は1回実施した。目標の2回には届かなかった。ストレスチェック度は85で、平均の100、目標の90より低い。ただ、個別には高ストレス状態の教員がいるかもしれない。

【C委員】

先生方の努力がよくわかる内容であった。就労への意欲が90%に届いている。感謝申しあげる。

【D委員】

弊社は3月1日が新年度の始まりで、人権を強く意識する時期である。人権に関する知識やノウハウを会社が持っていたとしても、世の中全体で人権について伝える必要がある。悲しい話であるが、障がい者施設での虐待件数が過去最大になった。社会に出てから、「これは虐待かも」「ハラスメントではないか」と受け止め、信頼できる人に相談できるようになるための指導が在学中に必要なと思われる。

【E委員】

ストレスチェック度が85であることはとても良い。

(2) 令和6年度 学校経営計画について

【校長】

令和5年度評価で達成していない項目を達成できるように設定した。教育庁への仮提出の段階では大きな指摘はない。

【B委員】

心強い内容であった。生徒のよりどころとしての相談体制を続けてほしい。同時に教員のワークライフバランスにも工夫して取り組んでほしい。

(3) 学校祭(11月)アンケートについて

【首席A】

今年度は保護者向けに紙のアンケートで実施し、24件の回答があった。概ね良い評価であった。来年度は来賓の企業の方や地域の来校者からのアンケートを得るために紙とGoogle Formの併用としたい。

【委員より】

特になし

(4) 生徒保健委員会の活動報告(校外での発表)

【保健主事】

校外での発表の機会が2回あり、どちらも主催者から「よくできている」と評価された。

大阪府立学校保健研究発表大会では、今年度の食とアレルギーについて発表した。アンケートを実施したりクイズをしたりして、学校全体で「食」について考えた。クイズの正解者には「食マスターシール」を贈呈した。校内の自動販売機の飲み物について、砂糖の含有量が視覚的にわかるように、実際に砂糖をペットボトルに入れて展示した。

大阪府学校保健・安全研究大会では、過去の取り組みで全国表彰された「ハミガキ100%リターンズ」について推薦を受け、発表する機会を得た。ハミガキは今年度も継続して推奨運動をした。

【委員より】

特になし

(5) 令和5年度3年生(9期生)の進路状況について

【進路指導主事】

就職率は89%(26/29)で、事務、店舗内業務が多い。2人は就労移行支援、1人は未定で卒業後にも支援機関を紹介する予定。アフターフォローもしっかりとしていきたい。法定雇用率が上がり、多くの企業から声を掛けてもらっている。2年生も就職希望者が多い。

【C委員】

就職率が90%に近いのは先生方の努力の賜物である。とりかいに就学する意欲、日々をどのように過ごして就職につなげているのか、これからの生徒にも伝えていただきたい。

【E委員】

就職につながって嬉しいと同時に、障がい者就労ができる社会でありたいという思いがする。先日受けた相談は「7年勤めて、まだわからないのか」と言われたケース。これまでは安定して過ごしていた方で、相談は一度もなかったが、本人が泣いたことで相談につながった。聞いていて、胸が苦しくなった。我慢し続けるのではなく、相談できる社会であってほしい。社会の障がい者理解が進むようにしていきたい。

(6) その他、質疑応答

【A 委員】

個人的には、ダンス部がグランプリを受賞していることに「やったー」という気分である。広報として、個人情報保護の兼ね合いがあるが、ホームページ上に動画を載せると外部の方も見られて良いのではないかと。ICT の進んでいる取り組みも発信していただきたい。よくできていることはどんどんアピールする方がよい。校長から先生方の背中を押してはどうか。

数学に関連して、お金のことをどう教えていくか。最近はキャッシュレス化が進み、「見えないお金」をどのように管理するのが良いか。スマートフォンのアプリで残高確認するなどのデジタル社会になっている。悪い人間はよく考えるもので、デジタルに不慣れな人を狙った悪事が横行している。被害に遭わないために、学校でどう指導していくかご検討いただきたい。

人権に関して、あってはならない問題が日々生起している。日本はまだまだハラスメントの多い社会だといえる。ハラスメントに負けないためにも、「その時どうするか」を考えられる力をつけられる学びがあると良い。進路指導のアフターフォローのように、最善を考えるサポート体制の構築を学校に担ってほしい。

【F 委員】

日々の進路指導に感謝している。子どもは、入学前は「就職のための力をつけたい」、卒業を控えた今は「とりかいに来て良かった」と言っている。これも先生方のおかげであり、感謝している。仕事として、療育手帳のない大学生の就労の支援をしている。とりかいで学んでいる「社会に必要なすごく大事なこと」を、大学生も教わる機会があっても良いと考えている。

【校 長】

ご意見をいただいたこと、しっかりとやっていきたい。人権、金銭管理、いじめなど、家庭と連携して対応していきたい。共生推進教室との連携を深め、広報にも力を入れ、生徒一人ひとりの自立を促すための本校のミッションを考えていきたい。どのようなカリキュラムで、どう支援していくのか、今後も引き続き検討していきたい。